

Another point <to consider> is [how much time children have <to play>].
列挙・追加 S V C 不定詞の形容詞用法

It is very **doubtful**, however, **whether** any Japanese children **get** that much free time].
形式主語 真の主語 S' V' O'

Children need a **proper** outdoor **environment** / [where they can freely **spend** **their time playing** with friends].
関係副詞 S' V' O'

内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を、誤っていれば×を記入しなさい。

1. Average Japanese twelve-year-olds play four to five hours a day. ()
2. Playing video games and watching TV can teach children how to get along with others. ()
3. In order to learn about leadership and group harmony, children need to play with friends. ()

覚えておきたい表現

It is ~ whether ... 「…かどうかは～である」

ℓ.3: **It is** very doubtful, however, **whether** any Japanese children get that much free time. 「しかし、どの日本の子供にもそれほど多くの自由時間があるかどうかは非常に疑わしい。」

• It is doubtful whether ... 「…かどうかは疑わしい」: It は形式主語。真の主語は whether 「…かどうか」という名詞節。形式主語の it は不定詞や that 節を代表するが、このように that 節以外の名詞節も代表する。

Ex. **It is** doubtful **whether** he can change his lifestyle. 「彼が自分のライフスタイルを変えられるかどうか疑わしい。」

• that much time = so much time 「そんなに多くの時間」: この that は副詞で形容詞 much を修飾している。

few 「～するものはほとんどない」

ℓ.6: very **few** would tell them to go out and play 「外へ行って遊ぶようにと子供に言う親は、ほとんどいないだろう」

• very few ~ 「～するものはほとんどいない」: この few は「ほとんどないもの」という代名詞。訳し方としては「ほとんどないものは～する → ～するものはほとんどいない」とするとよい。また、few には、few + 複数形名詞という形容詞の few もある。どちらも a がついていないと、数について否定的な意味になる。

Ex. **Few** students come late for class. 「授業に遅刻してくる学生はほとんどいない。」

• tell them to go out and play 「子供に外に出て遊べと言う」: tell + A + to do 「A に…するように言う」。

spend+ (時間) +…ing 「…して (時間) を過ごす」

ℓ.14: a proper outdoor environment where they can freely **spend their time playing** with friends 「自由に友達と一緒に遊んで過ごせる適切な屋外環境」

• spend + (時間) +…ing: 時間の後ろには不定詞ではなく…ing 形が続くことに注意。

Ex. John **spent all day repairing** an old bicycle. 「ジョンは1日中、古い自転車を修理して過ごした。」

• environment where ... 「…という環境」: where は場所を表す名詞に続く関係副詞。

整理しよう! *段落要旨・構造*

① もう1つの重要な点: 遊ぶ時間の長さ

◆ ℓ.1 **Another** ~ 「別の～は: 列挙・追加」

◆ ℓ.2 **Some** ~ 「ある～は: 列挙・追加」

• 4, 5時間外で遊ぶことが必要という人もいる。

◆ ℓ.4 **however** 「しかし: 逆接」

日本の子供にはそんな時間はなさそうだ。

• 日本の親は子供の将来を心配して勉強するよう子供に言う。

⇨ 外で遊べと言う親はほとんどいない。

② 子供と遊びの関係のまとめ

• 子供は家の中で勉強時間外に何をしているか。

◆ ℓ.10 **for instance** 「例えば: 例」

(例示) 1人でテレビゲームをしたりテレビを見たりしている。

→ これでは人間関係の技能(統率力やグループの調和)は学べない。

→ (結論) 屋外での遊びこそ、人間関係の技能の獲得に必要。子供には屋外の遊び場が必要だ。

背景知識

● 「遊び」を通じた子供の発達 — 社会性を身に付ける

子供の遊び方は、成長とともに変わっていく。これを遊びをする本人の側から見ると、心身の発達段階に合わせた変化であることが見える。例えば、運動能力や感覚機能の乏しい乳児期には「ガラガラ」やおもちゃなどの「物」を通じて感覚を使おうとするが、運動能力も感覚機能もある程度発達すると、イメージによる模倣を取り込んだ「ごっこ遊び」へと変化していく。

他方、遊び相手との関係から見ると、遊び相手として両親だけが必要であったところから1歳～3歳の間に同年齢の子供へと遊び相手が変わってゆく。そして5歳～8歳という時期を迎えて、同年齢の仲間同士の関係性を重視するようになり、さらに8歳～11歳になると、親友関係が生まれ、両親との関係よりも親友関係を大事にするようになる。この時期を経て小学校高学年～中学生頃までの時期になると、4人～8人の同年代の仲間との結びつきを強くし、そのような仲間同士でグループを作って(「ギャング集団」と呼ばれる)行動するようになる。この時期を特にギャングエイジと呼び、子供は集団内での自分の役割を得ることで、責任感や義務感、忠誠といったさまざまな社会性を学ぶとされる。しかし、現代ではギャングエイジの子供が積極的に活動を行える空き地や遊び場が乏しくなり、加えて、テレビゲームなど「自分の家で1人だけで」遊べるおもちゃが増えていることが、子供の社会性の発達を妨げる一因となっている。

【深めたい人に】: 林洋一監修『やさしくわかる発達心理学』(ナツメ社、2005年)